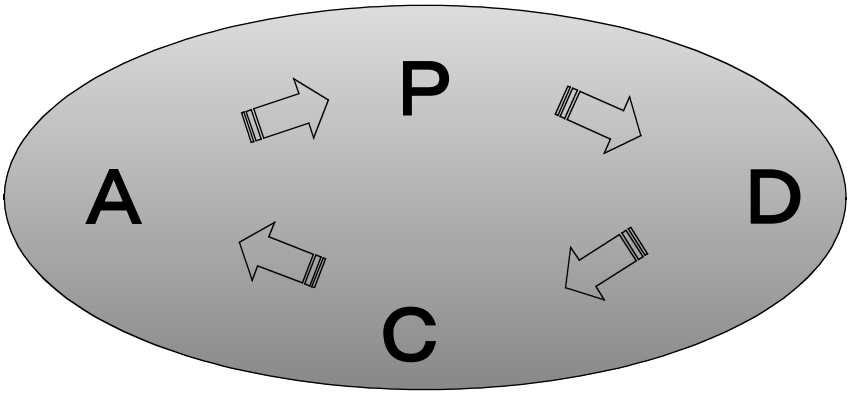
令和元年度

学　校　評　価　書



Ｐ（プラン）→Ｄ（ドゥ＝実施）→Ｃ（チェック＝評価）→Ａ（アクション＝改善）
による学校経営

室蘭市立大沢小学校

令和２年２月

大沢小学校保護者の皆様
大沢小学校学校評議員　様
大沢小学校区各町内会長　様
輪西地区青少年健全育成協議会長　様
輪西地区民生児童委員協議会長　様
輪西商店街振興組合理事長　様
NPO法人ワニワニクラブの仲間たちの会理事長　様

室蘭市立大沢小学校長　猪子　雅司

学校評価書の配布について

大沢小学校最後の卒業証書授与式まであとわずかの時期となりました。関係の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、保護者の皆様にご協力頂いた「保護者アンケート」やお子さんに行った「子どもアンケート」等の結果を材料に、今年度の学校経営を振り返り、次年度に向けての改善策を立てる学校評価の取組を、地域関係者の皆様の協力も得て行って参りました。

つきましては、学校評価書としてまとめましたので配布させて頂きます。ご一読頂けると幸いです。

これまでの大沢小学校教育の推進にご理解とご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、関係各位へ学校関係者評価会議のご案内を差し上げたところ、ご多忙中にもかかわらずご来校いただき、貴重なご意見を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

学　校　評　価　書

令和元年度　室蘭市立大沢小学校

☆児童数　７３名（前年比－７）　通常学級６　特別支援学級２
☆校長１　教頭１　教諭８　養護教諭１　事務職員１　事務員１　用務員１
特別支援教育特別支援学級支援員２　同通常学級支援員１　学習支援員１

大沢小学校教育目標

大きな夢を沢山もって、この地から未来に羽ばたく児童を育てる

○よく考える子ども（知）	＝創造性・理論性	⇨ **か**	んがえる
○やりぬく子ども（意）	＝耐性・積極性	⇨ **が**	んばる
○はげましあう子ども（情）	＝感受性・社会性・協調性	⇨ **や**	さしい
○じょうぶな子ども（体）	＝明朗生・健康安全	⇨ **け**	んこうな

『かがやけ！沢っ子』 か んがえる子 が んばる子 や さしい子 け んこうな子

令和元年度本校のめざす子ども像

○学ぶ喜びを知り、素直に生き生きと自分を表現する子（自立）
○かかわる楽しさと学び合いの良さを実感し、相互に高め合う子（共生）
○自立と共生の学びから、心豊かで主体的に学びつづける子(学びの創造)

目指す卒業時の児童の姿

- ●知・意・情・体のバランスのとれた児童
- ●基礎的な知識や技能を身につけるとともに、個人や集団でそれらを活用したり、課題を探究したりするなど主体的に学ぶ意欲のある児童
- ●学習を見通し、解決し、振り返ることのできる、意欲をもった児童
- ●他者との関わりを求め、仲間づくりをし、切磋琢磨できる児童

令和元年度本校のめざす学校像

「学校職員の教育力、保護者・地域の教育参加による教育力、子ども自身の教育力が十分発揮され、互いに育ち合う学びの共同体」

○子どもたちにとって、楽しく学び合える『明日も行きたい学校』
○職員にとって　『働き甲斐があり専門性を高められる学校』
○保護者にとって『安心し信頼できる学校』
○地域にとって　『身近な存在の学校』

学校づくりの合言葉】～**かがやけ沢っ子　大**きな夢を**沢**山もって、この地から未来に羽ばたこう

令和元年度の重点課題

（１）仲間づくりを基盤にした学級づくりと学年を超えたチーム大沢づくりの推進

（２）「生きる力」を支える「確かな学力」の向上

（３）生涯を見据えた心身の健康・体力の保持増進

（４）小・中連携教育の着実な推進

（５）地域連携の着実な推進

（６）優しさや思いやりの心を育てる道徳教育の充実

（７）特別支援教育の充実

（８）キャリア教育の推進

（９）海陽小との統合に関わる諸準備の推進

今年度の学校経営を振り返り、海陽小学校へのスムーズな統合を図るため、学校評価の取組を行いました。評価に活かすための各アンケートへのご協力に感謝いたします。（保護者アンケート配布ＰＴＡ数５６　回収数３７　回収率６６％）

今回も、前ページに示した「今年度の重点課題」に添って、関連するアンケートの集計結果について振り返り、海陽小学校への引き継ぎに活かしていきます。

数値は**％で**、「**Ａ＝達成された**」とした割合と、「**Ａ＝達成された・Ｂ＝概ね達成された」の合計**を示す。ＡＢの割合が減少し、「**Ｃ＝やや不十分**」「**Ｄ＝不十分**」が増加した項目については、結果を真摯にとらえ改善策を考えます。

※ ▭ →高評価　前年度より**10％以上アップ**したところ

※ ▭ →低評価　前年度より**10％以上ダウン**したところ

○●は今後学校として取り組む考察・方策についてまとめています。

Ⅰ　仲間づくりを基盤にした学級づくりと学年を超えたチーム大沢づくりの推進についての検証

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
1	学習のきまりがわかり、いきいきと落ち着いて授業に参加できる指導を工夫していると思いますか。	37%	36%	91%	88%
2	一人一人の学習状況や実態をとらえ、一人一人に応じた指導が工夫されていると思いますか。	28%	24%	82%	76%
3	今までの学習経験や生活経験を基に、考えをまとめて発表したり、話し合ったりする活動を授業に取り入れていると思いますか。	39%	32%	89%	76%
4	それぞれの学年の漢字や計算の力が定着するように指導の工夫がされていますか。	28%	32%	76%	87%
5	実物投影機やパソコンを使い、学校の授業内容を理解させ、楽しく学習できるよう工夫していると思いますか。	37%	48%	91%	79%
6	学校は、学年に応じた体力をつけるための取組を行っていると思いますか。（新）	33%	56%	82%	81%
7	先生方は、互いに共通認識に立ち、子どもや保護者の相談に親身に対応していると思いますか。	37%	50%	84%	76%
8	保護者や地域の話に耳を傾け、改善を図りながら、前向きに対応していると思いますか。	37%	50%	88%	82%
9	「意欲、思いやり、協力性」など道徳性を育むために、体験を通した活動が工夫されていると思いますか。	37%	43%	89%	89%
10	いじめや不登校の問題に、迅速に対応し、適切な指導行っていると思いますか。	39%	32%	85%	75%
11	学校は、運動会・学習発表会・沢っ子まつり等の行事で、最後まであきらめず取り組めるように、指導・支援を行っていたと思いますか。	72%	59%	98%	97%
12	学校だより、学年通信、ＨＰ等は十分に発信され、学校の教育方針や取り組みを知らせるのに役立っていると思いますか。	59%	61%	91%	97%
13	授業参観や懇談会等、学校を知る機会は十分に用意され、来校者への配慮が十分にされていると思いますか。	48%	46%	93%	95%
14	保護者や地域と情報を共有し、子どもの安全・安心が高まるような取組がなされていると思いますか。	28%	51%	87%	95%

子どもアンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
7	児童会や縦割り班の活動で、他の学年の人とも思いやりの気持ちを持って、仲よく活動していますか。	62%	73%	94%	94%
9	係や委員会、児童会の活動に、意欲を持って一生懸命活動していますか。	59%	67%	89%	99%

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
5	よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育てることが出来たか。	22%	40%	78%	50%
6	児童会を中心とした集会活動など、取り組む過程を大切にした取り組みで、成就感や達成感を味わわせることが出来たか。	22%	20%	67%	80%
7	縦割り班・ふれあい弁当・地区児童会など、異学年活動を行い、幅広い人間関係をつくるとともに、小規模校の良さを引き出す活動を推進することが出来たか。	33%	30%	89%	70%

考察とまとめ

○　保護者アンケートからは基礎学力の定着や体力の向上における取組、楽しく学習するための補助機器の工夫と活用、児童や保護者との共通理解と連携について、大幅な評価の向上が見られました。いずれも学校の役割として中核であることから、よい結果に結びついたことは大きな収穫でした。
　また、子どもアンケートや教職員アンケートの結果からは小規模校である本校の特性をいかした縦割り班活動や全校的な集会活動がよりよい人間関係づくりに大いに役立っていることがうかがえます。ただ、小規模故に人間関係が固定化したり、広がりにくいという一面もあるため、統合校である海陽小学校との交流や、地域にある保育所・老人ホーム等との交流も取り入れていく必要があると考えます。

●　一方、保護者アンケートでは、表現力を高める活動や個々の子どもに寄り添ったり、支援したりする姿に課題が見られるという評価をいただきました。3 学期にも、閉校式をはじめとする大きな行事で子どもたちが活躍する場面が多くあります。その際の支援についても、今回いただいた意見をもとに個々の子どもたちが達成感・成就感を感じられる声かけと指導を続けていきます。
　また、いじめに関しては未然防止はもちろんのこと、事実発生の場合はいじめられている児童の安全確保を最優先に、学校組織全体でスピード感を持って解決にあたります。関係機関との連携が必要な場合においても迅速に行っていきます。
　不登校については、原因の特定と事実を教職員全体で共有し、学校全体で解決にあたります。その上で学校と家庭とで連絡を密にし、共感的な受容体制で早期の登校復帰を図っていきます。またいじめ問題発生の際と同様、関係機関との連携も密にして参ります。

Ⅱ　生きる力」を支える「確かな学力」の向上についての検証

子どもアンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
1	学習内容は、よくわかりますか。	68%	51%	99%	97%
2	授業では、落ち着いてしっかり話を聞いたり、発表したりしていますか。	53%	39%	94%	87%
3	むずかしい勉強もわかるまでがんばって、勉強していますか。	59%	55%	94%	93%
4	どの教科でも、考えを発表したり、話し合ったりする学習に進んで取り組んでいますか。	52%	43%	90%	90%
5	それぞれの学年の漢字の読み書きや計算の仕方は、出来ていますか。	62%	65%	93%	89%

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
1	学習のきまりがわかり、いきいきと落ち着いて授業に参加できる指導を工夫していると思いますか。	37%	36%	91%	88%
2	一人一人の学習状況や実態をとらえ、一人一人に応じた指導が工夫されていると思いますか。	28%	24%	82%	76%
3	今までの学習経験や生活経験を基に、考えをまとめて発表したり、話し合ったりする活動を授業に取り入れていると思いますか。	39%	32%	89%	76%
4	それぞれの学年の漢字や計算の力が定着するように指導の工夫がされていますか。	28%	32%	76%	87%
5	実物投影機やパソコンを使い、学校の授業内容を理解させ、楽しく学習できるよう工夫していると思いますか。	37%	48%	91%	79%

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
10	計画的・実践的な校内研修による授業づくり・授業改善の推進をすることが出来たか。	44%	30%	89%	70%
11	学習活動を、習得・活用・探究という視点で捉え、基礎的基本的事項の確かな習得と活用場面をいかす指導計画や指導過程の工夫・改善をすることが出来たか。	33%	30%	89%	90%
12	６年生全国学力テストや、市独自の学力調査である５年生の国語・算数・ＮＲＴ実施等によって、児童の学力の状況を把握するとともに、結果の分析を行い、授業改善や家庭学習に活かせるように出来たか。	22%	30%	67%	89%
13	実物投影機の活用等、ＩＣＴ機器活用による授業づくりとそのための環境整備の推進をすることが出来たか。	22%	30%	100%	90%

考察とまとめ

○　学校は子どもが学び、学力を向上させるところです。そのため、子どもたちの学力がどの分野で伸び、どの分野で伸び悩んでいるのかを検証し、改善の方策を図っていく必要があります。その指標となるのが毎年 4 月全国共通で行われる全国学力・学習状況調査です。この調査では例年、国語・算数の学習調査【理科は 3 年に 1 度程度実施】が行われます。　※【　】部分は文部科学省原文ままま

本年度の結果は対象学年のご家庭に配布されておりますので、詳しくは省きますが、全体的な傾向としてお話しさせていただきます。

○　子どもたちがまず戸惑うのは、問題数の多さ、問題文の多さ、解答条件の複雑さなどです。

本校の子どもたちは基礎的・基本的内容が比較的よく身に付いており、漢字や計算の定着についてはある程度自信を持って学習に臨めています。（子どもアンケートの 5 番）また、宿題等でもそれらの学習が課題として与えられるため、きっとご家庭でもそれらの学習に取り組んでいる姿を目にすることが多いのではないでしょうか。（保護者アンケートの 4 番）

●　しかし、上記の調査は今までに学習したそれらの力をフル活用して、問題を解決することができるかを問われる調査であるため、慣れない子どもたちにとっては非常に難しく感じる事が多いようです。

次年度から小学校の学習指導要領が全面改訂されます。

今までの「知識として何を知ったか」から、これからは「知った知識で何ができるようになったか」という考えに大きく変わってきます。当然、授業の形態や内容も変化してくるでしょうし、それを評価するテストなども変化してくることが考えられます。現在全国の教職員もその変化に備え、試行錯誤の中で授業を工夫改善しているところです。

職員アンケートの中で授業づくり、授業改善についての項目で従来に比べ、低い数値として出ている背景には上記のような理由もありますことをご理解いただければと考えております。

もちろん、それに甘んじることなく、3 学期も積み重ねた研修の成果を子どもたちに還元すべく､授業改善により子どもたちの学力向上に努めて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

Ⅲ　生涯を見据えた心身の健康・体力の保持増進についての検証

子どもアンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
6	日ごろから、健康の事を考えたり、体力づくりなどを進んでしていますか。	52%	57%	86%	83%
13	早寝・早起き・朝ご飯の生活リズムは整っていますか。	46%	59%	86%	76%
14	テレビやゲーム、携帯（スマホ）の約束は守れていますか。	56%	65%	92%	92%

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
6	学校は、学年に応じた体力をつけるための取組を行っていると思いますか。（新）	33%	56%	82%	81%
18	家庭では、「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけていますか。	30%	38%	67%	72%
19	家庭では、「テレビ、ゲーム、携帯（スマホ）などの時間を減らすように心がけていますか。	15%	30%	48%	59%

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
20	新体力テストを教育課程に位置づけ、生涯体育の観点から自己の体力を見直し、体つくりの習慣化を図る。ことが出来たか。	33%	0%	67%	50%
21	縄跳びや持久走、プール学習やスケート学習等の取り組み、あるいは日常的な遊びなどを通して、運動の生活化を目指す体育活動の充実を図ることが出来たか。	33%	10%	78%	80%
22	栄養指導教室、性教育など、身体の成長やいのちに関わる理解に結びつく保健学習の充実を図ることが出来たか。	22%	20%	67%	50%
23	家庭・地域と連携した子どもの生活習慣の改善に努めることが出来たか。	22%	10%	67%	30%

考察とまとめ

○　保護者アンケートや子どもアンケートでは生活リズムの改善やゲーム・スマホ・PC などに関わる時間の改善など大きな成果があったとの回答をいただきました。
　このような取組はご家庭の協力はもちろん、本人の自覚と自律によるところが大変大きく、学校として大変ありがたく思っております。心身の健康は日常生活を健やかに過ごすための基盤であり、生活リズムや基本的な生活習慣はその健康に大きく影響します。今後も学校・家庭で連携し、現在の生活リズムのまま、統合校で始まる新生活につなげていきましょう。※生活リズムに関しては、ご家庭に頼っていたという結果が、教職員アンケートからもうかがえます。今後は学校からも積極的な発信を心がけていきます。

●　職員アンケートでは、子どもたちの体力状況を分析し、体力の向上につながる取組を十分に行うことができなかったとの結果が出ました。ちなみに体力テストの項目の内北海道全体で見ると本州の子どもよりも大きく劣る項目が「50 m 走」です。雪が降る地域柄、地面を蹴って走る経験は本州の子どもと比較すると、かなり少ないことは間違いないでしょう。ただ、冬期間の体育では、本州の子どもたちが経験できない運動も数多く計画できます。体育の時間を中心に休み時間等も上手に活用

し、運動能力の向上に最も大切な運動量の確保を今後も目指していきます。

Ⅳ　小・中連携教育の着実な推進についての検証

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
24	中学校区小中連携会議による協力体制を維持・強化することが出来たか。	33%	30%	78%	80%
25	授業交流や研究授業等の相互参加を行うことが出来たか。	33%	36%	100%	82%
26	学習・生活・保健体育に於いて作成した中学校区スタンダードを意識した取り組みと検証を行い、改善を図ることが出来たか。	22%	10%	67%	60%
27	新入学児の実態を早期に把握し、小ープロブレムの解消に努め、また、中学校との連携を密にし、中ーギャップの解消、幼保・小・中のスムーズな連携を図ることが出来たか。	22%	30%	67%	50%

考察とまとめ

● 本年度は閉校年度ということもあり、海陽小学校との小・小連携に注力した 1 年でした。そのため、本来日常化すべき、授業交流や研究授業への相互参加がかなわなかったのは残念でした。各校の子どもの様子をしっかりと視認する事は児童・生徒理解にとって欠かせません。3 学期に実施される参観日や研究授業の際にも相互の学校間で参加を図って参ります。

○ 生徒指導面では、小中連携会議（年 3 回）や各会議の中学校区部会で情報共有を図り、不登校や各学校で抱えている課題について交流し、共通認識に立つことができました。「翔陽中学校区の子ども」という観点で教職員が見守ることができるよう今後も継続して情報共有と 9 年間の教育方針（翔陽中スタンダード）について共通理解を図って参ります。

Ⅴ　優しさや思いやりの心を育てる道徳教育の充実についての検証

子どもアンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
11	先生や地域の人、学校を訪れた人に元気よくあいさつしていますか。	65%	72%	94%	92%
12	学習用具を忘れず、校内や校外の生活のきまりを守り、けじめのある学校生活を送っていますか。	51%	31%	91%	84%

いじめアンケートでの認知数

今年度　前期３件　　後期０件

〇いずれも調査後、個人面談や個別の指導、学級指導などを行い解決済み。

全国学力学習状況調査の児童質問紙（６年生）集計結果から

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか　「当てはまる」の割合　　**本校　100　%**　全国　85.0%

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
9	「意欲、思いやり、協力性」など道徳性を育むために、体験を通した活動が工夫されていると思いますか。	37%	43%	89%	89%
16	お子さんは、周りの人に元気よくあいさつしていると思いますか。	17%	32%	64%	81%
17	お子さんは、学習用具を揃え、学校や社会のルールを守ろうとする態度が身についていると思いますか。	17%	19%	67%	68%

考察とまとめ

〇　あいさつについては、日頃通学路に立っていただいている指導員やボランティアのみなさんからも大変お褒めいただいております。高学年の子どもたちの元気で気持ちのよい挨拶は大沢小学校のよき伝統として脈々と受け継がれてきており、低学年の子どもたちのよきお手本ともなっています。

●　子どもアンケートでは忘れ物をなくすこと、生活のきまりを守ることで、自信を持って「できている」と答える子の割合が減少しています。ルールやマナーを守る規範意識は社会に出たときに最も大切になる力です。学校生活全般を通して、身に付けられるようにすることはもちろん、自分一人でも、誰も見ていない場面でも、しっかりと善悪の判断が付き、よりよい行動をとれる子どもたちを学校と保護者、地域で育んでいければと考えています。

Ⅵ　特別支援教育の充実についての検証

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
29	通常学級での交流や共同学習を通じて、合理的配慮による指導や支援のあり方について、また、ユニバーサルデザイン的な学級のあり方について実践を深めることが出来たか。	33%	10%	78%	60%
30	指導や支援に役立つ研修を企画し、指導や支援のあり方や仕方についてスキルアップを図ることが出来たか。	33%	10%	67%	50%
31	個別の指導計画の改善や個別の教育支援計画の積み上げを行うことが出来たか。	22%	20%	67%	60%

考察とまとめ

● 職員アンケートでは、交流学習や共同学習の効果的な実践について十分ではないとする意見が見られました。本年度は特に担任不在の期間が長くなり、支援学級の児童・保護者には大変な負担をかけてしまったことを申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。支援学級につきましては、交流学級と合同で学習する時間を多くとるなど対応して参りましたが、3 学期中も管理職をはじめとする学校体制全体で支援を行っていきたいと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。

○ 教師自身の資質を高めるために欠かせないものとして研修があります。「教育公務員特例法の第 4 章　第 21 条」に　「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」と定められているとおり、我々は日々変わる教育内容について学び続ける必要があります。自主的な研修はもちろん、学校全体で取り組む授業改善についての研究、毎日の授業実践にすぐにいかすことができる実技研修などを研修担当を中心に計画・実践しています。今年度は前大沢小職員の津田邦子先生を講師にお招きし、音楽指導の実技研修に取り組みました。

Ⅶ　キャリア教育の推進についての検証

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
32	学校での日常の学び、地域に出ての学び、体験的な学び等、様々な場面に於いてそこに働く大人や、人と人とのつながり、ものや施設を意識させることにより、社会とのつながりを感じたり、考えたりする取組を推進することが出来たか。	44%	27%	78%	82%

全国学力学習状況調査の児童質問紙（６年生）集計結果から

将来の夢や希望を持っていますか
当てはまる　の割合　**本校　66.7%**
（前年46.6%）
全国　65.9%

考察とまとめ

○ 教職員アンケートでは、昨年度よりも低い数値となりました。一方、6 年生に対する児童アンケートでは昨年度よりもより具体的に夢や希望を持っている児童が増えてきていることがわかります。
　キャリア教育というと聞き慣れない言葉かもしれませんが、「自分の良さをいかして、働きながら社会と関わっていくための力を育てる教育」とまとめられます。（※だいぶ端折っているので、詳しくは文部科学省の HP でご確認をお願いします。）「自分の良さをいかして」ですから、自分のよいところ、得意な分野を自分が知っていなければなりません【自己肯定感】。そしてそれをいかして、社会の役に立つように働

ける人間になる【自己有用感】ことが目的です。

幸い、輪西地区には数々の業種があり、それぞれの分野で活躍する方たちの姿を見ることができます。その方たちが、自分たちの生活のためにどんな役割を担っていただいているのかを間近に確認できる貴重な地域でもあります。「自分の得意なことでみんなに喜んでもらいたい、みんなを笑顔にしたい。」という気持ちを持ち、将来の自分像を描ける体験や学習を 3 学期も進めていければと考えています。

Ⅷ　地域連携の着実な推進についての検証

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
12	学校だより、学年通信、ＨＰ等は十分に発信され、学校の教育方針や取り組みを知らせるのに役立っていると思いますか。	59%	61%	91%	97%
13	授業参観や懇談会等、学校を知る機会は十分に用意され、来校者への配慮が十分にされていると思いますか。	48%	46%	93%	95%
14	保護者や地域と情報を共有し、子どもの安全・安心が高まるような取組がなされていると思いますか。	50%	51%	91%	95%

職員アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
4	家庭や地域との連携を図るとともに、関係諸機関との連携、情報交換を密に行い、個別の生徒指導に役立てることが出来たか。	33%	20%	89%	70%
18	学習スキルを確実に身につけ、自ら学ぶ力を育む家庭学習の取組を進めることが出来たか。	44%	20%	100%	50%
19	優れた地域教材の確かな教材化（教育課程への位置づけ）が出来たか。	22%	30%	67%	60%
23	家庭・地域と連携した子どもの生活習慣の改善に努めることが出来たか。	22%	10%	67%	30%

考察とまとめ

○　保護者アンケートから学校から発行される通信や HP、学校に来校していただく機会の多さについてはおおむね高い評価をいただきました。情報発信は今日学校の果たすべき役割の中で重要な仕事の一つであります。また、今年度は閉校の 1 年と言うこともあり、様々な活動を新聞等のメディアのご協力を得ながら家庭や地域への発信を図ってきました。子どもたちも自分たちの学校の活動が紹介される事により、誇りを持て、学校愛・地域愛の高まりにつながっているようです。

●　一方、職員アンケートでは、まだまだご家庭の要望や期待を受け止め切れていないと反省する評価となりました。密な連絡とよく言われますが、「何かあったとき（よくないことがあったとき）にだけ連絡する。」のでは密な連絡とは言えません。「何もないとき（よいことがあったとき）に密に連絡を取っている。」からこそ、何か事が起きたときに連携して対応ができる関係を築けるものです。3 学期間も上記のことを肝に銘じ、ご家庭との信頼関係構築に努めて参ります。

Ⅸ　校務の情報化と危機管理についての検証

保護者アンケートから　情報化関係

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
5	実物投影機やパソコンを使い、学校の授業内容を理解させ、楽しく学習できるよう工夫していると思いますか。	37%	48%	91%	79%

職員アンケートから　情報化関係

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
33	通知表のデータ化や印刷作業の協働性を図り、業務の軽減に努めることが出来たか。	33%	30%	90%	100%
34	校務の情報化の可能性を探り、計画的に推進することが出来たか。	22%	30%	78%	80%
35	授業におけるＩＣＴ器機活用と環境整備を推進することが出来たか。	44%	30%	89%	90%

保護者アンケートから　危機管理関係

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
14	保護者や地域と情報を共有し、子どもの安全・安心が高まるような取組がなされていると思いますか。	50%	51%	91%	95%

職員アンケートから

36	防災計画や危機管理マニュアルの内容を共有するするとともに、場面を工夫した訓練等で緊急時に対応できる力を育むことが出来たか。	33%	30%	67%	100%

考察とまとめ

○　次年度からの教科書改訂にかかわり、今後さらに学習教材のデジタル化（教師が一斉指導の際にモニターに映すもの、または子どもたちの教科書自体もデジタル化される事も考えられます。）が進んでくることは間違いありません。学習指導をする上で動画や音声を子どもたちに提示することは非常に効果的でもあり、今や授業を進める上でデジタル教材は不可欠と言ってもよいでしょう。子どもたちの成績処理や校務データの蓄積においても今やほとんどがデジタル化されている地域がほとんどです。
　であるからこそ、扱う人間は細心の注意が必要です。本校でも個人情報保護については、危機管理マニュアルに明記し、情報漏洩が起こらないよう万全を期しております。

○　防災計画や危機管理マニュアルについては、逐次見直しと改訂が必要です。「想定外」とよく言われますが、「想定外」があってはならないということは東日本大震災や、北海道胆振東部地震で我々も再確認したところです。
　学校は子どもたちにとって最も安全なところでなくてはなりません。そのため、学校では災害に限らず、様々な危機対応について、マニュアルを作成しております。また、そのマニュアルが机上の空論にならぬよう、全職員が共通理解に立って行動できるように対策と訓練を行っています。

Ⅹ　その他　学校を楽しみにしていますか

保護者アンケートから

		Ａとした割合		ＡＢの割合	
		30年度	元年度	30年度	元年度
15	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	41%	50%	80%	83%

考察とまとめ

○　学校は子どもたちにとって楽しい場所であり、安心できる場所であるべきです。昨年度よりも数値的に改善は見られますが、子どもの興味を高める授業の工夫や楽しみにできる取組などをより改善を図っていきます。今いる 73 名の子どもたちが 20 歳になったときに大沢小学校を心のふるさとと懐かしく思い出すことができるような時間と空間をこの 3 学期間も目指していきたいと考えています。

Ⅻ　保護者アンケートでの記述に関して

※　個人特定につながらないよう文言等を修正しております。ご了承下さい。

○　いつも子ども達の教育・指導に感謝しております。ありがとうございます。(2 件)

○　先生方の個人の考え方で、学習面の考え方が違いすぎる。家庭学習をさせることは良いことであるが、やり方も分からない時期から、一人で家庭学習をするように求められた。結果、勉強嫌いにつながってしまった。

> ◎　学校より
> ご指摘ありがとうございました。小さい頃から学ぶ習慣や学ぶ事への楽しみを身に付けていくためには、しっかりとした前準備が必要です。今後は、よりきめ細かな支援を行うなどその子その子に適したペースで取り組ませて参ります。

○　子どもの評価について、担任になって間もない時期で判断し、すぐに悪いレッテルを貼るのではなく、もっと長い目で見守ってほしかった。
○　子どもの気持ちを傷つける発言をされた。(2 件)

> ◎　学校より
> 不快な思いをされたことをお詫びいたします。おっしゃるとおり、子どもの成長を温かく長い目で見守り、支援していくことが担任としての責務です。今後はより、言動に気をつけ、同様のことがないようにいたします。

○　学習発表会の演目が長すぎます。

> ◎　学校より
> ご指摘ありがとうございます。行事全体の終了時刻を意識し、各役割のもとでしっかりとタイムマネジメントに努めます。

○　総会で承認されていない閉校に関わる事業が次々と行われた。本校のような保護者が少ない PTA にとって非常に負担感がある。保護者も限りがあるのだから、活動を行いたいのであれば、それに賛同できる有志ですると良いと思います。それを容認している学校にも不信感を覚えます。

○　閉校等で忙しいとは思いますが、保護者が前に出すぎるのではなく、「主役は子ども」という意識を忘れないでほしい。

> ◎　学校より
> ご指摘ありがとうございます。閉校に関わっては、PTA 役員を中心とする閉校事業実行委員会、そして各部に配されている保護者の皆様に多大なご負担をかけております。本来学校が担わなければならない作業についても、保護者の

皆様のご協力で進められ、ようやくゴールが見えてきたところでございます。
ご指摘の件につきましては、もちろん、当初に予算・事業など完全に計画できればよいのですが、何分初めて、かつ大きな事業でもありますので、種々様々な変更・追加の事業が出て参りました。それに対しての対応と負担感については、誠に申し訳ありませんでした。
閉校式まであとわずかです。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

☆統合に関して

○　大沢小学校の先生も海陽小に異動し、担任に入ってもらえると心強い。（2件）

◎　学校より
教員の異動に関してはまだ決まっていないため、なんとも言えませんが、子どもたちの気持ちの安定やスムーズな統合のためには、必要なことと考えております。PTAや統合推進協議会からも要望としてあげておりますので、その結果を見守りたいと考えています。

○　少人数の学校からから多人数の学校に変わるので、子どもたちの心のケアなど、慎重に見ていただけると心強いです。

◎　学校より
大沢小の子どもたちが統合校での生活にスムーズになじめるかというのは、保護者のみなさんにとっては最もご心配なことでしょうし、学校としても配慮しなければならないことです。一人ひとりの子どもたちについてしっかりと引き継ぎをし、統合先でも心のケアに努める体制を準備しておきます。

○　スクールバスの運行に関しては若干課題があると思いますので、実施後に再度検討してください。
○　スクールバスで通学することになりますが、のりものよいをするため、酔い止め薬をもたせたいです。その薬は自己管理でも大丈夫でしょうか？

◎　学校より
スクールバスの運行については実施後、不都合等あれば、その都度市に要望し改善を図っていくことになると考えています。
薬の持参については、服用に関して声かけも可能ですので、担任や養護教諭に教えておいていただけると助かります。